

びろっぱ

Vol.472 2025. 11

近森病院附属看護学校 学園祭

表紙の写真



〈入江理事長プロジェクト〉個室を増やそう

講演会「スマートホスピタル革命～病院DXで実現する医療と働き方の最適解～」開催
こうち外国人材優良サポート事業者の認証取得

近森病院

近森リハビリテーション病院

近森オルソリハビリテーション病院

からのお知らせ

12月30日(火)～1月4日(日)は休診です。※近森病院救命救急センターは24時間対応いたします。

入江理事長の

Project

近森会の今後の新しい

プロジェクトについて、順次ひろっぱでお知らせします。

プロジェクト

社会医療法人近森会 理事長

入江 博之 いりえ ひろゆき

プロジェクト 11

個室を増やそう

はじめに

かつての修学旅行といえば、40人ほどが一室に集い、枕投げに興じる——そんな賑やかな「雑魚寝」の光景が当たり前でした。しかし今では、中学・高校の修学旅行でさえホテルの個室に宿泊することが一般的となり、大部屋で過ごす機会は少なくなりました。社会全体でプライバシーを大切にする意識が高まるとともに、性的指向や性自認の多様性(LGBTQ+)への理解も広がり、安心して過ごせる空間の在り方があらためて問われる時代になりました。



ご要望の変化

入院される患者さんにおいても同様のご要望が多く、「個室はありませんか」というご相談をいただくことが少なくありません。一方で、近森病院本院では個室数が十分ではなく、やむを得ず大部屋でお

過ごしていただく場合があるのが現状です。この課題は総合心療センター（以下、心療センター）でも同様です。

具体的な改装内容

そこで私たちは、心療センターと北館病棟の改装に着手し、個室ならびに4人床を計画的に増設することになりました。具体的には、心療センター3階・4階を大規模に改装し、北館と接続してこのエリアに個室と4人床を整備のうえ、本館の一部病床を移設いたします。あわせて、心療センターは4階の一部・5階・6階に集約し、個室を拡充いたします。結果として心療センターの病床数は44床となりますが、現時点の稼働率から適正規模と判断しております。背景には、できるだけ短期間で療養し自宅へお戻りいただく、という心療センターの方針があり、この取り組みにより在院日数も着実に短縮しております。

入院後の利便性向上に向けて

また、2026年6月には本館3階と北館3階が空中通路で接続される予定です。これにより、本館と北館の一体化が一層進みま

講演会

高知医療再生機構補助金Hybrid講演会

『スマートホスピタル革命 ～病院DXで実現する 医療と働き方の最適解～』

恵寿総合病院 理事長補佐 神野 正隆先生
かんの まさたか

〈2025年9月4日〉

社会医療法人近森会 理事長 入江 博之
いりえ ひろゆき

前列左から、筆者、講師 神野正隆先生、近森正幸相談役
後列左から、寺田文彦管理部長、長山信夫DX推進部部長、岡本充子統括看護
部長、平野友紀理事長補佐兼臨床工学部部長、山崎啓嗣経営企画部部長



す。北館の患者さんは心臓カテーテル、内視鏡、心エコー、IVRCT、脳波など、本館3階の検査エリアへの移動がよりスムーズになります。

さらに、本館1階正面玄関北側にある売店を3階へ移設し、北館を含む入院患者さんの利便性を高めてまいります。個室の増設とあわせ、患者さんお一人おひとりのご事情やご希望に、よりきめ細かくお応えできる体制を整えてまいります。

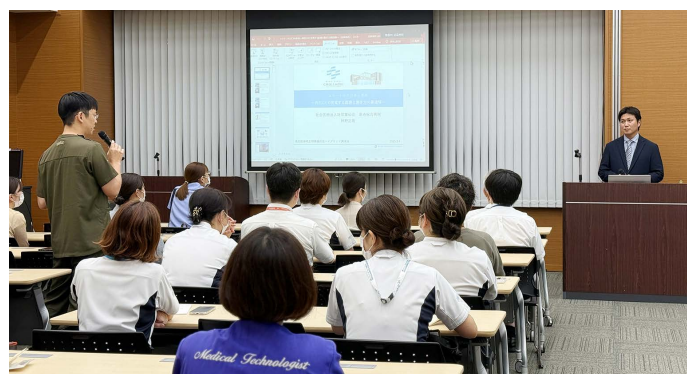
近森会は、地域の皆さまとともに歩む医療機関として、時代の変化と患者さんの声に真摯に向き合い、より快適で、治療に専念いただける環境づくりに取り組み続けます。

近森病院一般病棟350床の編成(集中治療病棟を除く) (室)

部屋	変更前	変更後
個室	78	96 (+18)
2人	0	5 (+5)
4人	34	39 (+5)
5人	14	14
6人	11	3 (-8)

今回の講師は石川県七尾市にある恵寿総合病院の神野正隆先生です。恵寿総合病院といえば昨年1月の能登半島大地震で地域を守り抜いた病院として全国から注目されている病院です。その大きな要因の一つがDXを取り入れて最先端の機能を持った病院であったことです。先生は理事長補佐として、そのDX化を事実上指揮されています。高知と同様、今後就労人口の減少が見込まれており、DXを導入することにより人手を省き、かつ効率を上げるといった分野でも全国の最先端を走っておられます。

恵寿総合病院では既に、電子カルテに生成AIを応用したサマリー作り、またスマートフォンを利用した院内チャットをはじめさまざまな



取り組みをされています。また企業と提携し、病院DXの開発に邁進しておられます。我々もその後を追うように今後スマホやチャット、さらには生成AIの導入などを検討しているところです。

ご講演後、会場参加またWeb視聴されたさまざまな方から、大変刺激を受けた、びっくりしたといったご意見を多くいただき、まだまだぬるま湯に浸かっている高知の医療体制、医療人に大いなる刺激を与えてくださいました。





海外出張 報告



ESC 2025 (欧州心臓病学会)

2025年8月29日～9月1日 / スペイン・マドリード

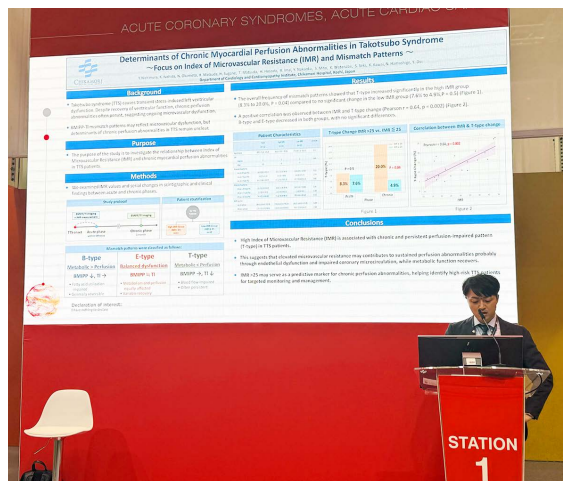
¡Hola!

近森病院 循環器内科
西村 祐希 にしむら ゆうき

演題

『Determinants of Chronic Myocardial Perfusion Abnormalities in Takotsubo Syndrome: Focus on Index of Microvascular Resistance (IMR) and Mismatch Patterns』

(たこつぼ症候群における慢性期心筋灌流異常の規定因子: 微小血管抵抗指数 (IMR) とミスマッチパターンに着目した検討)



たこつぼ症候群の新たな治療戦略の可能性

たこつぼ症候群において、微小血管の詳細評価により新たな治療戦略の可能性を示唆する研究成果を発表しました。発表と質疑応答は相変わらず緊張しましたが、自分自身の考えをしっかりと伝えることができ、無事終えることができました。

学会の合間に

題名の「¡Hola!」は「オラ」と読み、スペイン語で「やあ」といった挨拶です。朝昼晩いつでも使えるのでこれさえ覚えておけば何とかなります。¡Hola! を多用しながら、学会の合間にはマドリードの歴史ある街並みや文化にも触れ、念願のレアル・マドリードの試合も観ることができ、充実した滞在となりました。



ESCの日本人懇親会 ～全国の仲間たちとともにさらなる成長を～

ESCは日本からの参加者も多く、現地での日本人懇親会にも参加し、日本

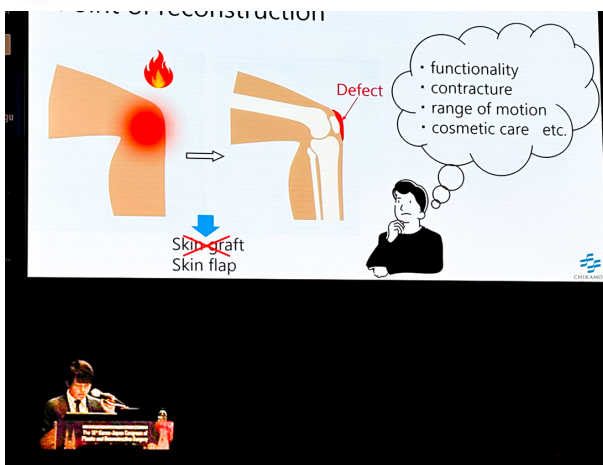
全国の先生方とも多く知り合うことができました。上の先生方はもちろん、同世代、自分よりも下の世代で世界相手に活躍している先生方と話し、自分自身の成長すべき点も見えてきました。近森病院から発信する大切さも再認識し、日々の臨床に加えて、臨床研究にも力を入れ、患者さんにとってより良い医療が提供できるよう精進していきます。

ご指導いただいた西田先生をはじめ、臨床研究に協力いただいている循環器内科の先生方、コメディカルスタッフの方々に改めて感謝を申し上げます。¡Gracias!



KJPRS 2025 (第16回 韓日・日韓形成外科学会国際学術集会)

2025年9月10～13日 / 韓国・大邱



KJPRS 2025 国際学会参加報告 ～大邱での発表と学び～

近森病院 形成外科 南 活機 みなみ かつき

演題

『Two cases of post-burn necrosis of the patellar region reconstructed with a perforating branch of the medial superior knee artery』

(熱傷後の膝蓋部壊死に対して、内側上膝穿通枝皮弁を用いて再建を行った二例)





Pinloc KOL会議

2025年8月30日～9月5日／スウェーデン



近森病院 整形外科 科長
小田 和孝 おだ かずたか

Pinloc KOL会議 in スウェーデン

演題 『Clinical results of undisplaced femoral neck fracture』
(非転位型大腿骨頸部骨折の治療成績)

スウェーデンでの会議に初参加

このたび、8/30～9/5の日程でスウェーデンでのインプラント(手術で使用する機械)に関する会議に参加してきました。日本からの参加は三島中央病院、昭和医科大学横浜市北部病院、明石医療センター、淡路医療センター、三田市民病院、坂出回生病院、近森病院の7施設8名となり、私は今回が初参加となります。10年以上前のインプラント開発に始まったこの会議も、コロナの影響で前回からは数年あけての開催となりました。

今回の会議の中心は、「Hansson Pinloc 2」と呼ばれる、当院では大腿骨頸部骨折の非転位型に用いる骨接合用のインプラントになります。このインプラントを使用するにあたり約10年が経過しましたので、各施設よりその治療成績について発表し、現地のスタッフも加わり、その改善点や今後の見通しなどを討論することが、今回の会議の主旨となります。

現地での学びと臨床への想い

スウェーデンでの病院見学や現地医師と交流する場も設けていただき、インプラント開発工場も見学させていただきました。

現在、大腿骨頸部骨折は安定型であっても、人工物置換を選択される施設が増加傾向にあります。私自身は年齢や骨質、骨折型を考慮し、術式は選択されるべきと考えており、何でもかんでも人工物置換という考え方は否定的に思っています。少なくとも今回集まった7施設はそのような考えのもと骨接合を行っている外傷病院であり、近森病院 整形外科では、今後もより良い治療を提供できるよう、日々精進してまいります。



国際学会で得られた刺激と学び

このたび、9月に韓国・大邱にて開催されたKJPRS 2025に参加し、当院での診療経験を発表する機会を頂きました。

国際学会での口頭発表は去年のAPSSM 2024(第4回 国際癰瘍・ケロイド学会)に引き続き2回目となりますが、今回も新鮮で大変実りの多い充実した時間を過ごさせていただきました。

他国の先生方の発表やセッションに触れることで新しい視点や発想を得ることができたと同時に、国内での学会とはまた違う大きなスケールを感じました。

自身の発表では他国の先生方との議論や意見交換を通して、新たな学びや気づきを

得ることができたと実感しております。

大邱での貴重な経験と今後への抱負

発表後は大邱の中心街で観光や韓国の食文化を楽しむこともできました。

余談ですが、韓国の青唐辛子は辛さ耐性のある自分にとっても耐え難い食材であったので、皆さん遭遇した際にはお気をつけください。

今回の経験を通じて得られた刺激や経験を今後の診療にしっかり活かすと共に、これからも学会発表に積極的に参加して参りたいと思います。

最後に、本発表にあたりご指導・ご支援いただいた関係者各位に心より感謝申し上げます。



リハ病院 オープンホスピタル 開催しました

2025年8月3日

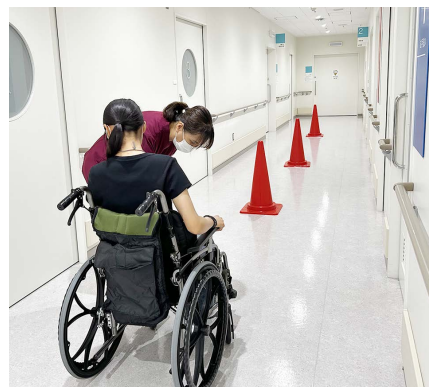
近森リハビリテーション病院 院長
和田 恵美子 わだ えみこ

近森リハビリテーション病院にて、8月3日(日)にオープンホスピタルを開催しました。

当日は、高校生を中心に27名の方がご参加くださいました。今年は、昨年より体験ブースを増やし14ヶ所準備しました。高次脳機能検査の体験・筋トレ・車椅子介助体験・InBody体験・リフト体験など、実際の機器を使った体験ブースが人気でした。

参加した方が進路を考える際に参考になるよう、来年はさらにブラッシュアップしたオープンホスピタルを開催したいと思います。

参加者へ配った
記念ノベルティ



一般市民を対象に

薬剤耐性 (AMR) 対策セミナーで 講演しました

高知県主催 県民公開講座

近森病院 感染症内科 部長
石田 正之
いしだ まさゆき



2025年8月24日／高知市文化プラザかるぽーと 11階 大講義室

近森病院では、AMRに対して種々の取り組みを行っています。以前に「ひろっば」誌上でお知らせした、公募型の医学教育助成を受けてのAMR教育プログラム実施などもその一環でしたが、今回は、



高知県が主催した一般市民向けの公開講座に協力させていただきました。

最新の研究結果では、これから25年の間に、AMRで亡くなる方は世界で3,900万人に上ると推計されています (Lancet. 2024;404:1199)。AMR問題の課題の一つが抗菌薬の適正な使用になりますが、適正な使用を行うためには、薬を処方する側だけでなく、処方を受ける側の相互の認識、理解が重要になります。しかしまだまだAMRに対する認識は非常に低く、広く啓発を行っていくことが大切です。

今回は、まず「AMRってなに」という一番の基本から、抗菌薬の処方が不適切になりやすい疾患の一つとして「風邪」を取り上げ、抗菌薬の適正使用について解説させていただきました。

夏休み終盤の週末、日曜日の昼下がりにもかかわらず、40名弱の方々に参加いただきました。今後もAMR対策への様々な活動に取り組むとともに、市民の方向けの企画も継続して行っていきたいと思います。今回参加できなかった方も、次回開催の折は、是非多くの方々に足を運んでいただきたいと思います。

研修 修了報告 県外ドクター

県外の医療機関より研修で近森病院へ来られた先生方から、研修修了に際してメッセージを頂きました。

循環器内科

聖路加国際病院より

研修期間

2025年4月1日～9月30日

茂 季哉 先生
しげる としや



救急外来、検査室、病棟など院内のあらゆる場所で日々多くを学び、充実した6か月を過ごすことが出来ました。近森病院での経験が大きな財産となっています。ありがとうございました。

循環器内科

昭和医科大学横浜市北部病院より

研修期間

2025年4月1日～9月30日

加藤 大貴 先生
かとう だいき

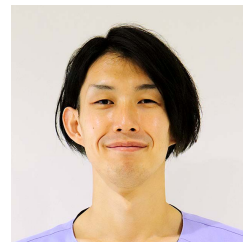


カテーテルやエコーなど循環器領域の疾患についての検査、治療を、時間をかけて丁寧に教えていただきました。また、楽しい方ばかりで毎日勤務するのが楽しかったです。短い間でしたが大変お世話になりました。ありがとうございました。

栄養で支えるがん治療

近森病院 臨床栄養部

近森病院 臨床栄養部
管理栄養士 主任
田部 大樹
たべ だいき



便秘への対処法

これまでの連載で「下痢」や「嘔吐」を取り上げましたが、今回のテーマは「便秘」です。がん患者さんの23～65%に便秘が見られると報告されているように、「便が出なくてお腹が張る」や「便が出ないとご飯が進まない」といった相談を受けます。

便秘の背景としては、がんそのものはもちろん、手術や鎮痛薬、抗がん剤などの影響が考えられます。がんそのものや手術直後であることが便秘の原因でなければ、「食物繊維」や「乳製品」を積極的に摂取しましょう。がん治療中にはたんぱく質の摂取が重要なので、1日の食事の中に、食物繊維が同時に摂れる納豆1パック程度を追加したり、乳酸菌と一緒にたんぱく質が摂れるヨーグルトも1カップほど取り入れると理想的です。

しかし、そもそも食欲がない方も多いと思います。その場合は、医師や薬剤師にも相談し薬に便の調節を頼って、食事は喉を通りやすく食べやすいものを摂取しましょう。ただ、食欲がない場合は水分摂取の量が減ってしまい、これも便秘の要因となります。そのため、便秘で食欲がない場合でも水分の摂取は意識しましょう。この際におすすめの食品は、汁・スープ類、またはお鍋などは水気が多く、ほかの食品より水分を多く摂取しやすいためおすすめです(塩分の量が心配な方は管理栄養士に相談してください)。これらの食品も活用してみてください。

食欲がない時は…

1. 薬で対応



2.

食べやすい
もので食事



水分摂取も
忘れずに



看護師特定行為研修 実習

11月～1月末

近森病院での実習がスタートします。
ご協力、よろしくお願いいたします。

実習に出るまでの座学の様子 ▶



こうち外国人材優良サポート 事業者の認証を取得しました

2025年9月9日

社会医療法人近森会 常務理事 兼 管理部長 寺田 文彦 てらだ ふみひこ

9月9日に社会医療法人近森会は「こうち外国人材優良サポート事業者」(認証は全15施設)として高知県より認証をいただき、授与式において認証書(★★★)と認証マークを拝受いたしました。外国人介護スタッフ(インドネシア)の受け入れ実績の評価が授与理由であり、式典では当法人(医療)を含めて、プラント工業や電機など、異なる3つの業種のプレゼンテーションがありました。

当法人は寮の完備や毎週の日本語研修など、様々な生活支援を整え、多様な人材が安心して働ける環境づくりに努めております。今後は、医療現場において、日本人に劣らない質の高いケアの実現と、地域医療の充実にさらに貢献してまいります。



(写真左) 15施設が揃ったの記念撮影。
(写真右) 当法人での外国人材のサポート体制を
発表する筆者。



すまいる♥ナース通信 # 認定看護師

安全な医療と療養のために



近森病院 感染制御部(看護部)

副看護部長／

感染管理認定看護師 近森 幹子 ちかもり みきこ

感染管理認定看護師として感染制御部、感染対策チーム(ICT)に所属し、活動をしています。ICTは、スタッフの協力を得ながら患者さん、ご家族、研修生、職員等、院内すべての方が安心して医療を受け、療養できる環境作りや体制整備、研修等を行っています。本年度は、感染対策の主軸となる手指衛生(手の消毒・手洗い)の遵守率向上を目標に取り組みをしています。

これから冬期になると、インフルエンザや感染性胃腸炎など、様々な感染症が流行します。病院の中には細菌、ウイルスなどが存在しうる場所なので、感染を防ぐための活動を行っていきたくと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いします。



近森会グループ看護部
マスコットキャラクター モリンちゃん

ありがとう
ございました!

献血

10/16

結果

- 協力者(受付者数) 63名
- うち400ml献血ができた方 ... 56名

血液センター様
からの目標(50名)
達成!





移転の お知らせ



移転後の新しいオフィスで働くスタッフの皆さん

● 近森リハビリテーション病院 北側



職員の皆さん、健康診断などでお越しの際は、職員専用入口から専用エレベーターをご利用ください。

健康管理センターが 移転しました

2025年10月6日～

管理棟7階にあった健康管理センターが、近森リハビリテーション病院8階に移転しました。

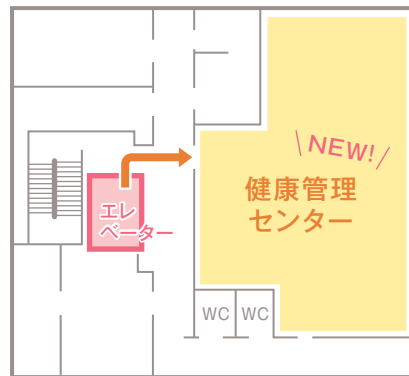


血圧測定の様子

職員ICカードを
タッチ！



● 8階



第25回 近森会グループ ソフトボール大会

今回初めて、看護学校からチームが出場し、スタッフ、学生さんともに汗を流しました。

2025年9月23日



初出場！
看護学校チーム

優勝／
REHA stars



● 参加者数：74名（全6チーム）

近森会グループ 災害対策!

テーマ
1

トイレ

が使えない、
それが一番困る

～近森病院の災害用トイレに迫る～

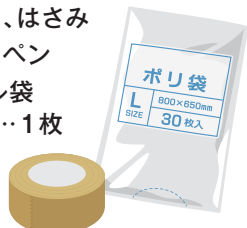
【第3回】災害用トイレを身の周りのもので作ってみよう!



近森病院 透析室 看護師
宇田 えりな うだ えりな

準備するもの

- ダンボール…2個
- ガムテープ
- カッター、はさみ
- マジックペン
- ビニール袋 (45ℓ)…1枚



1

2個のダンボールを組み合わせ、ガムテープで固定する。

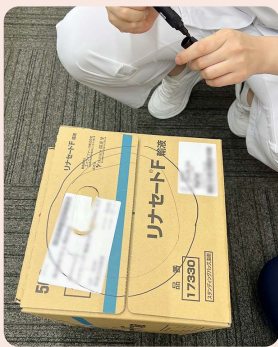
POINT

1個だと座ると潰れるため、2個重ね補強する。



2

ダンボールの上にマジックペンで円を書く。



3

円に沿ってカッター、はさみを使って穴を開ける。



4

穴を開けたらそこにビニール袋を入れる。



5

ダンボールで作った災害用トイレの完成!



使用後は、ビニール袋を取り出し、封をして廃棄します。



- 今回でトイレシリーズは最終回。なくてはならないトイレから災害対策をご紹介しました。次回は、近森オルソリハビリテーション病院で行っている取組をご紹介します。どうぞ楽しみに。

沖縄フリー

2025年9月2～4日



2025年度
職員旅行



東京フリー

2025年9月7～9日

第8回

近森病院附属看護学校

学園祭



筆者：左から2番目

近森病院附属看護学校 2年生 高橋 甘夏
学生自治会 副委員長

たかはし かな

第8回近森病院附属看護学校学園祭は『一体感』をコンセプトに学生、教職員、地域の皆様とともに創り上げることができ、温かな交流の場となりました。模擬店やキッズスペース、学校長の健康相談など幅広い世代の方に楽しんでいただけるよう工夫を凝らし、実際に多くの交流が生まれたことは大きな経験となり、また学園祭の準備や運営を通し多くの気づきを得ることができました。来年はさらに盛り上がる学園祭になると期待しています。

● 学園祭の様子は表紙でもご紹介しています。



2025年9月13日



現場を知り、夢を育む オープンキャンパス～母体病院編～

近森病院附属看護学校 事務局 主任 谷 仁美 さんにひとみ

今年度も近森病院協力のもと、「オープンキャンパス～母体病院編～」を開催しました。病院紹介や病院見学、先輩看護師との座談会に加え、DMATをはじめとする各種展示も行い、参加した高校生たちにとって、現場を身近に感じられる貴重な機会となりました。



参加者からは「働く看護師の姿がカッコよかった」「将来は近森病院で働きたいと思った」などの声が聞かれ、看護師を目指す気持ちが一層高まったようでした。

自律移動型清掃ロボット AI搭載

運用開始しています

全国で約30台、
高知で2台目の
導入！



清掃作業の効率化と安全・快適な院内環境の維持を目的に、AI搭載の清掃ロボットを今年7月から院内で運用しています。

担当者の感想

ホコリを取り、拭き上げる作業が同時にムラなくできるので仕上がりが美しく、院内の美観がレベルアップしたと思います。また、清掃作業が短時間で効率的にできるのもうれしいですね。

熱烈応援 昇格人事

寄り添う 外来看護を 大切に

近森オルソ
リハビリテーション病院
外来 看護師長

関 恵里 せき えり



近森オルソリハビリテーション病院に入職して、8年が経過しました。この度、看護師長を拝命し、身の引き締まる思いでいっぱいです。院内外の多職種と連携を強化し、患者さんの望む生活の実現に向けて、患者さんとご家族に寄り添う看護が提供できるように、外来チーム全員で取り組んでいきたいです。よろしくお願いいたします。

ハッスル研修医

学びを力に変えて

初期研修医 1年目
中澤 羽琉 なかざわ はる



研修医として働き始めて半年が経ちました。日々の診療では自分の未熟さを痛感すること多いですが、その分だけ学ぶ機会に恵まれていると感じています。患者さんの笑顔や感謝の言葉に触れるたび、医師として歩み始めた喜びを実感し、もっと成長したいという思いが強まります。指導して下さる先生方や支えて下さるスタッフの皆様のおかげで、少しずつできることが増えてきたように感じます。これからも学びを力に変えて、少しでも患者さんやチームに貢献できるよう努力してまいります。

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

New face ニューフェイス

- ① 所属 ② 出身地
- ③ 最終出身校 ④ 卒業年次
- ⑤ 趣味など

村田 直輝

むらた なおき

- ① 呼吸器内科医師
- ② 大阪府高槻市
- ③ 京都大学医学部医学科
- ④ 2022年
- ⑤ 呼吸器内科専攻医の村田直輝です。一人一人の患者さんに寄り添って、丁寧に仕事をしたいと思っています。



吉村 和樹

よしむら かずき

- ① 救急科医師
- ② 高知市
- ③ 高知大学
- ④ 2021年
- ⑤ 地域研修を終え、多くの学びを得ました。その経験を今後の診療に還元していきます。



電子カルテ管理課

Windows10サポート終了に伴い、 更新対象PC 440台を順次作業中

当課で管理しているインターネットPCについて、Windows11に対応していない端末(約440台)の更新作業実施中です。データ移行量が多いため、苦戦しています(残150台程)。



当課と株式会社山元様のスタッフが共同し、たくさんのPCを効率的に更新。

近森会健康保険組合

家庭常備薬の 斡旋と費用補助

セルフメディケーションの推進、健康管理、疾病予防などを目的として、今回新しく、組合員を対象に家庭常備薬の2,000円費用補助を行いました。

新しい
福利厚生
の取り組み



9月25日、購入した家庭常備薬が届けられました。

退職

ごあいさつ

近森病院 化学療法センター センター長 田中 洋輔

たなか ようすけ

在職

2010.3.1~2025.8.31 /
2025.9~非常勤

点滴センター(現・化学療法センター)の立ち上げから

入職の契機

高校の同級生の元放射線科部長、故・森田賢先生のご紹介で、新規整備する外来センターに点滴センターを立ち上げスタートすることを目的に、2010年3月入職させていただきました。

外来化学療法

旧本館の一角で施行した2010年の外来化学療法件数は632件でした。14年後の2024年には外来がん化学療法は2,183件、レミケード、アクテムラ、オレンシアなどの潰瘍性大腸炎や関節リウマチに対する分子標的薬の点滴523件と併せた外来化学療法は2,706件、入院施行を併せたがん化学療法は3,297件までに増加しています。2024年2月には、外来センター6階「点滴センター」からより広い北館2階「化学療法センター」に移転し、件数増加に充分対応可能となりました。

私の勤務15年の間にがん化学療法は進歩し、今では整備されたガイドラインに従ってレジメンを選択し、各種がん症例に対する治療方針を決定できています。さらに、薬剤師をはじめ看護師、管理栄養士、歯科衛生士、ソーシャルワーカーなどのチームによる患者支援体制も充実することができました。

乳腺・甲状腺外科

上記と並行し、外科部門として乳腺・甲状腺外科もさせていただきました。外科の若い先生方と手術をしたことは良い思い出です。

最後に

最も記憶に残っているのは、森田先生直々の依頼で最後の化学療法の主治医を務めたことです。当時の日記を見返すと「毎日毎日が戦いの連続であった」と記していました。

近森正幸前理事長には本当にお世話になりありがとうございました。なお、2026年3月末まで非常勤勤務をさせていただきます。近森病院の皆様、15年と6ヶ月間ありがとうございました。



歳時記

グリーンリボンデー(10月16日)

1997年10月16日施行の臓器移植法をルーツに、移植やいのちについて話し合う機会として始まった「グリーンリボンデー」。例年、この日を中心に臓器移植推進月間中に47都道府県でグリーンライトアップ



が行われ、高知県では当院を含む3か所で実施されました。各地を照らすこのグリーンの光には、ドナー(臓器提供者)への感謝に加え、移植希望者や移植医療を支える医療者などへのエールが込められています。





リレーエッセイ

私の最推し漫画

総合心療センター 看護師
尾崎 章 おさき ちかみ



我が家は親子で漫画好きで、家には約700冊の漫画があります。その中でも最推し漫画は、『ゴールデンカムイ』です。ゴールデンカムイは、明治末期の北海道を舞台に、元兵士の杉元佐一とアイヌの少女アシリパが、アイヌから奪われた莫大な金塊を巡って争奪戦を繰り広げる物語です。アニメ化や実写化もされているので、ご存じの方も多いと思います。



主人公の杉元をはじめ個性的なキャラが登場することもゴールデンカムイの魅力の一つで、私の推しは月島軍曹です。どんな任務も淡々とこなす屈強な兵士ですが、彼の過去には涙が出ます。

去年は新潟県で開催されたゴールデンカムイ展に娘と行ってきました。イラストや原画、アイヌの工芸品や陸軍の装備品など、資料の充実ぶりに感動しました。飛行機の時間もあり、新潟観光はできませんでしたが、とても楽しく充実した旅になりました。今年もイベントが全国各地で開催されているので、参戦したいと思います。



私の趣味

チューバ再開しました！

近森病院 薬剤部 薬剤師
丸岡 由貴 まるおか ゆき



みなさんはチューバという楽器を知っていますか？吹奏楽で演奏される楽器で主にベースを担当しています。

私は中学から高校まで吹奏楽でチューバを続けていました。卒業してからは楽器にふれる機会があまりないままでしたが、3年ほど前から友達に誘われ、市民楽団で吹奏楽を再開しました。ブランクがあり、入団当初は昔のように演奏できていませんでしたが、練習を重ねることでだんだん演奏できるようになってきたかなと感じる今日この頃です。

また入団した当初は借りた楽器を使っていましたが、演奏の楽しさについMy楽器を購入しました。現在は来年の2月に開催される定期演奏会に向けて練習を重ねています。お時間があれば足を運んでいただけたらうれしいです。



第30回 やいろ吹奏楽団
定期演奏会
2026年2月22日(日)

開場:17時45分 開演:18時30分(予定)
会場:高知市文化プラザザるぽーと

まるまる
FREE 私の〇〇

〇〇にフリーワードを入れて
語っていただきました

私の「子育て」

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部
作業療法科 科長補佐
道倉 由美香 みちくら ゆみか



毎日が仕事と子育てで忙しくあつという間に過ぎていきます。仕事以外の時間は、子供達のサッカー送迎や応援に費やす日々です。次男のクラブチーム、長女の少年サッカークラブと女子サッカーチームと、3つのチームの練習や試合のスケジュールでてんてこ舞い。

「休みがない」と母親に嘆くと、「子育ては忙しいうちが華よ」といつも言われます。私自身も学生時代に部活を全力で取り組めたのは、あの頃の私を全力でサポートや応援してくれた両親のおかげだと感謝しています。

日々の生活では、「土を落としてから家に入ってー」「またスパイク買い換えないかん～」などと叫んでいます。サッカーを頑張る子供達を見ると、努力し成長していく姿や仲間と勝利をつかんだ時の感動など、たくさんの応援できる幸せをもらっています。

忙しさにバテる時もありますが、限りある「忙しいうちが華」の時間を大切に楽しんでいきたいと思っています。

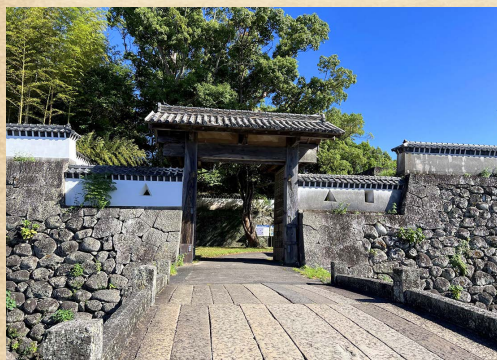




世界文化遺産 五島列島・福江島

福岡空港から福江空港へ、福江島をぶらりと巡ってきました。五島列島は隠れキリシタンの歴史と雄大な自然、ジオパークで有名ですが、何より移住者の増加で人口の社会増をかなえた全国でも異例の魅力的な島々です。

ちなみに、五島藩は黒船に対する海岸防衛のため、15年の歳月をかけ三方を海で囲まれた福江城を文久3年(1863年)に完成させましたが、膨大な2万両の工費で藩の財政は破綻しかかりました。それがなんとかなったのは、何故でしょうか？(答えは12ページの下)



▲ 海城、福江城の舟入
けだしもん
▲ 福江城の蹴出門



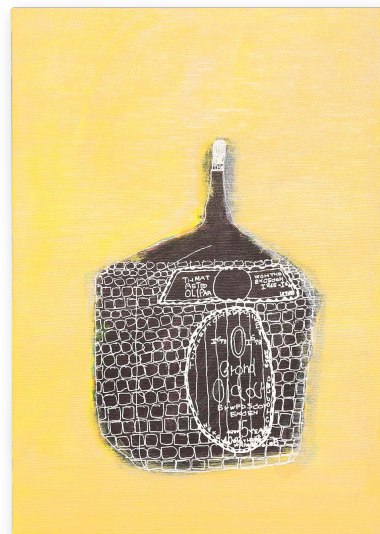
▲ Colorit GOTO ISLANDS前の海岸
Colorit GOTO ISLANDS ▶



CHIKAMORI COLLECTION

近森コレクション

不定期
掲載



オールドパー

内田 貴裕氏 (アートセンター画家)



アートセンター画家

編集室通信

秋は運動に最適な季節です。涼しい風の中で紅葉を眺めながらの散歩はきっとリフレッシュになると思います。1日3,000歩しか歩いていない私は、高知家ウォーキングチャレンジにエントリーしたこともあり、この秋は季節を感じつつ歩いてみようと思っています。

ちなみに、高知県は「日本一歩かない県」「日本一肥満の男性の割合が多い県」です。
にや〜ご

診療数 2025年9月

—— 電子カルテ管理課 ——

● 近森会グループ

外来患者数 16,726人
新入院患者数 1,033人
退院患者数 1,014人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 12.19日
地域医療支援病院 紹介率 102.61%
地域医療支援病院 逆紹介率 353.71%
救急車搬入件数 539件
うち入院件数 306件
手術件数 555件
うち手術室実施 334件
うち全身麻酔件数 236件

職員募集中!

3,000とおりの
誇れる仕事

募集職種

- 医師
- 言語聴覚士
- 看護師
- 薬剤師
- 介護福祉士
- 診療放射線技師
- 救急救命士
- 臨床検査技師
- 作業療法士
- 事務

詳しくは、近森会グループ
HPの採用ページをご覧ください。



岡部 美枝

Yoshie Okabe

近森リハビリテーション病院
地域連携室 シニア看護師長

聞き手／ひろっぱ編集部



NOは言わない
自分で壁を作らない
その姿勢が
信頼を育てる

近森リハビリテーション病院（以下、リハ病院）の地域連携をリードする岡部シニア看護師長。上司のリハ病院 松永部長曰く、フットワークが軽く前が切れると信頼を寄せている。プライベートでは3人の子どもを育て、週末は、次女の部活動の保護者会会長の仕事、長男が所属するバレーボールチームの手伝いをしたりとアクティブに過ごす。さらに、今年のよさこい祭りの前には、踊り子として参加するインドネシア人スタッフのためにミシンを持ち込んで衣装を直し、自身も踊り子として参加した。仕事もてきぱき、面倒見がよくてアクティブ！そのパワーはどこから湧いてくるのか？仕事と育児の両立のコツは？どんな答えが待っているのでしょうか？



ぜんそくとアレルギー

出身は広島県尾道市。幼児期からぜんそくとアレルギーがあり、発作による入院を繰り返した。高知女子大学（現 高知県立大学）在学中は保健師を目指したが、アレルギーのため一般家庭への訪問が難しいと諦めた。さらに、3年の病院実習中に、再びぜんそくの発作で緊急入院。主治医のいる高知での就職を決め、近森会グループへの就職を叶えた。

リハ病院勤務27年目

岡部シニア看護師長は、入職からリハ病院ひとすじ。回復期リハビリテーション病棟協会主催の看護師認定コースの1期生でも

ある。現在は、地域連携室にて、急性期からリハ病院への転院調整や入院後の地域サポートへのつなぎ役を務める。患者さん、ご家族、スタッフが「なるべく困らないスタート」を切れるように調整役や緩衝役を買う。「看護師の技術力が優れている方はたくさんいます。私の場合は、人として向き合うことを大切にしている、その脇を固めるのが看護師の技術や知識かな」と、柔らかさの中に、誇り高さを感じる、素敵な仕事の流儀を教えてください。

仕事と育児の両立とは？

長女は言う。「仕事と育児の『両立』とは、両方をする。うちは違うんじゃない？」。母（岡部シニア看護師長）は言う。「ごもっとも」。ルポ取材前の家族の会話である。岡部シニア看護師長が仕事に邁進できる背景には、家族の大きな協力がある。

「結婚する時に、義母が私の両親に『大学まで出て看護師になったんだから、続ける限りはサポートします』と言ってくれたんです。義理の妹も子どもたちをよく見てくれる

少林寺拳法が趣味の夫、大学生の長女、中学3年の次女、小学5年の長男と。



し、3人目が生まれて以降、料理はほぼ夫が担当していて…。勉強についても、「私が習った頃と勉強内容が変わっていることも多いから、年の近いお姉ちゃんが教える方が効率的」とポジティブである。母は、リビングで勉強をする子どもたちを眺め、学校の話や愚痴の聞き役を楽しむ。そして、週末は母の出番。部活動のサポートに全力投球。ちなみに、幸せを感じるのは「家族で美味しいものを食べている時」とのこと。岡部シニア看護師長の力の源は家族の存在のようだ。

自分の可能性と周りの支えを信じて

地域連携室の業務の合間を縫って毎年学会発表も取り組んでおり、今年も2本発表した。声をかけてもらったら、挑戦すると決めている。「主任の話がきた時、当時の部長から『依頼をするということは、できると思っているからで、私なんかが』ということはない』と言われたんです」と言った後に、「基本的に絶対できないこと以外は断らないと小さい時から決めている」と加えた。ずっと、柔らかな話し方のなか、この言葉に力がこもったため強く印象に残った。

過去には、病気が理由で諦めたことも少なくなかったはず。ただし、人一倍、いろいろなことに挑戦したことで、成功や喜びも積みあがっていった。その経験から紡がれた言葉だと思った。

“できることはする。けれどどうしてもできないことは、周りに素直に甘えてみる”。そうすることで、周囲とのつながりも深まり、道も広がるのだと、背中をぐっと押されたようなパワーをもらった。

